

パウリ・マレー — もうひとりのサーバント・リーダー —



大学宗教主任  
伊藤 悟  
Itoh Shota

米国のイエール大学が二〇一七年、黒人女性人権活動家パウリ・マレーの名前を冠したパウリ・マレー・カレッジ（米国コネチカット州）を新しく開学させました。パウリ・マレーは同大学が法学博士号を授与した最初の女性です。彼女はフェミニスト活動家、歴史家、法律家、詩人、教授、そして監督教会の司祭でもあり、いま彼女の卓越した知性、活動の功績、思想、信仰が改めて脚光を浴びています。



Carolina Digital Library and Archives.  
"Murray, Pauli, 1910-1985." 5 July 2007.  
Online image. UNC University Library.

（二八七六〜一九六四年にかけてアメリカ合衆国南部諸州に存在した黒人の行動を制限する法のこと）の「分離すれども平等」をめぐる議論が白熱していました。とりわけそのなかの「平等」の意味するところについて論点が集中していて、パウリはとうとうしびれを切らして発言しました。「平等」よりも「分離すれども」を問題にすべきでは？」しかし他の

学生たちは、そこには議論の余地はなく彼女の指摘はあまりに非現実的だと言って笑い飛ばし、その発言に取り合いませんでした。彼女は教室で唯一の女性でした。

M・L・キングが暗殺されて今年で五〇年ですが、マレーはそれより二〇年以上前から人種差別そして性差別と闘ってきました。差別や不正に対しては厳しく立ち向かい、声なき者の声となり、人々を教育することにも熱心で、あるときはキングに対しても、公民権運動のリーダーシップが黒人「男性」指導者だけで支配的に展開されていると批判したといいます。

アンナ・パウリ・マレー (Anna

Pauli Murray) は一九一〇年一月二〇日、ボルチモアで生まれました。母親アグネスはパウリが四歳の時に脳出血で亡くなり、地元の高校教師であった父親ウィリアムは子ども六人をひとり育てることができず、幼いパウリをダーラム（ノースカロライナ州）の親戚のもとに預けました。パウリはダーラムのヒルサイド高校を卒業したのちニューヨークのハンターカレッジで学びます。しかし学費調達に苦労したと言います。働きながら学業を続け、いくつかの新聞や雑誌に記事や詩を投稿し、地元紙にも連載小説を載せたりしましたが、黒人女性に支払われたのはきわめて低賃金でした。

ハンターカレッジを卒業後、ノースカロライナ大学大学院で学ぶことを希望しましたが、黒人ゆえに彼女は入学を拒否されます。そのためハワード大学のロースクールに進むこととなります。しかし、ここでも先に述べたような、教授や学生たちからのあからさまな性差別や人種差別に直面しました。

一九四四年、パウリはハワード大学を首席で卒業します。通常ならハーバード大学に特待生として迎えられるところ、ハーバード・ロースクールは女性であるがゆえにパウリの受け入れを拒絶しました。彼女はカリフォルニア大学のロースクールで学び、修士論文「雇用における機会均等の権利について」をまとめます。

これらの経験が彼女を人種差別・性差別闘争へと駆り立てていきました。彼女はつねに行動的でした。ローザ・パークスのバス事件より一五年前に、パウリはバスで後方座席に移動させられることを拒んで逮捕されています（一九四〇年）。ワシントンD・C.では、差別的なレストラン前で抗議の座り込みを行いました（一九四四年）。ルースベルト大統領宛てに直接抗議書簡を送ったことも

あります。多くの新聞や雑誌に寄稿し続け、何冊もの著作を通して人種的・性的「分離」の撤廃を訴えました。活動的であったパウリ・マレーの名は急速に、とくにアフリカ系アメリカ人の間で知られるようになります。一九四七年にはある雑誌の「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、一九四九年のニューヨーク市議選挙ではブルックリン地区で二番目の得票数でした。その後、コーネル大学の教員採用に応募しましたが、あまりにラディカルだという理由で彼女の採用は見送られます（一九五二年）。

一九六〇年代に入るとケネディ大統領が「市民権をめぐる女性委員会」の委員にパウリを指名しました。この時期に公民権運動家のフィリップ・ランドルフやキングらと親しく関わっています。公民権法が公布されたのは一九六四年ですが、この年パウリは著書『ジェーン・クロウと法——性差別と公民権法第七条』を公刊してジム・クロウ法廃止と共に性差別問題（ジェーン・クロウ）も並行して乗り越えるべきことを主張しています。イエール大学が彼女の論文「人種差別問題のルーツ」その序章から法成立まで」を評価してアフリカ

系アメリカ人に最初の法学博士の称号を与えたのは、その翌年のことです。パウリはサウスカロライナ州のベネディクト・カレッジ副学長、ブレインディーズ大学教授を歴任し六二歳で引退しますが、その後、監督教会の司祭になることを目指して神学校に入學したというのは驚きです。一九七三年に総合神学校を修了し、その翌年、パウリは監督教会のアフリカ系アメリカ人の最初の女性司祭として教会の按手礼（牧師を任命する儀式）を受けます。その後一〇年余りの歳月を彼女は牧師として過ごし、キリスト教福音を宣べ伝える多くの人々の魂の救済のために奔走して、一九八五年に癌で亡くなりました。



激動の時代に激動の人生を送ったパウリ・マレー。いくつかの証言をもとに彼女は性同一性障がいを抱えていたと言われ、LGBTQ+の立場からパウリ・マレーのレガシーを語る人たちがいます。フェミニストアフリカ系アメリカ人パウリ・マレーを強調する人たちもいます。あるいは最初の女性法学博士号取得者（イエール大学）であること、最初の黒人女性司祭となったことから彼女を「真のファーストレディ」と称賛する声もあります。さらに彼女の詩や著作もいま再評価され、パウリ・マレー研究も盛んになりつつあります。

わたしはM・L・キングの足跡を辿り、米南部の街ダーラムの歴史を調べているなかでパウリ・マレーの存在を知りました。先の「ザ・ニューヨーカー」紙は、聖書ガラテヤの信徒への手紙の言葉で記事を締めくくっています。「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆キリスト・イエスにおいて一つだからです。」彼女もまた、すべての人と社会に仕えたサーバント・リーダーだったと言えるでしょう。